

インド・チベット密教における死兆と臨終儀礼

著者	菊谷 竜太
雑誌名	東北文化研究室紀要
巻	54
ページ	87-91
発行年	2013-03-29
URL	http://hdl.handle.net/10097/56401

発表5

インド・チベット密教における死兆と臨終儀礼

東北大学大学院 菊 谷 竜 太

インドにおいて、ヴェーダ期からポスト・ヴェーダ期にかけて、宗教および医学の分野でさまざまな死の教理体系が蓄積・整備されていったことは既に指摘されている。EINO [2004] を踏まえた杉木 [2007] によれば、それらの体系は主に次の三要素から構成される。

- ①「死の兆し (Skt. *mṛtyucihna*, *mṛtyulakṣaṇa*; Tib. *ḥchi ba yi mtshan ma*)」
- ②「死 [神] を欺くこと (Skt. *mṛtyuvañcana*; Tib. *ḥchi blu ba*)」
- ③「転生の実践 (Skt. *utkrāntiyoga*; Tib. *ḥpho baḥi rnal ḥbyor*)」

①の「死の兆し」とは、死が迫っていることを知らせる兆相である。②の「死 [神] を欺くこと」とは、自分にとって望ましくない死を回避する手段であり、③の「転生の実践」とは、回避され得ない死、もしくは自らが望ましい死を受け入れるための実践に当たる。

EINO [2004] が指摘するように、これらの死の実践体系は汎インド的に展開・受容されつつインド仏教を継承したチベット世界へと伝達された。例えば、チベットにおける代表的な医学書『四部医典』には「人の死の兆候」として次の内容が説かれている (図1・2)。

I 「夢兆による『人の死の兆候』」:

- i 夢をみる原因、ii 吉祥なる夢兆、iii 死亡する夢兆、iv 失明する夢兆、
- v 健康・長寿・壮快なる夢兆

II 「死兆による『人の死の兆候』」:

- i 死亡の兆候、ii 瀕死の兆候、iii 臨死の兆候、iv 死兆を回避する方法

上記①②③の死の三要素と比べれば、①がIおよびIIのi～iii、②がII－ivの内容にそれぞれ対応すると考えられる。また、それが回避され得ない死であること、地・水・火・風という身体を構成する四大元素の衰退が死の兆相と関わることを考慮するならば、II－iiiの内容は③と関わるものと言えよう。

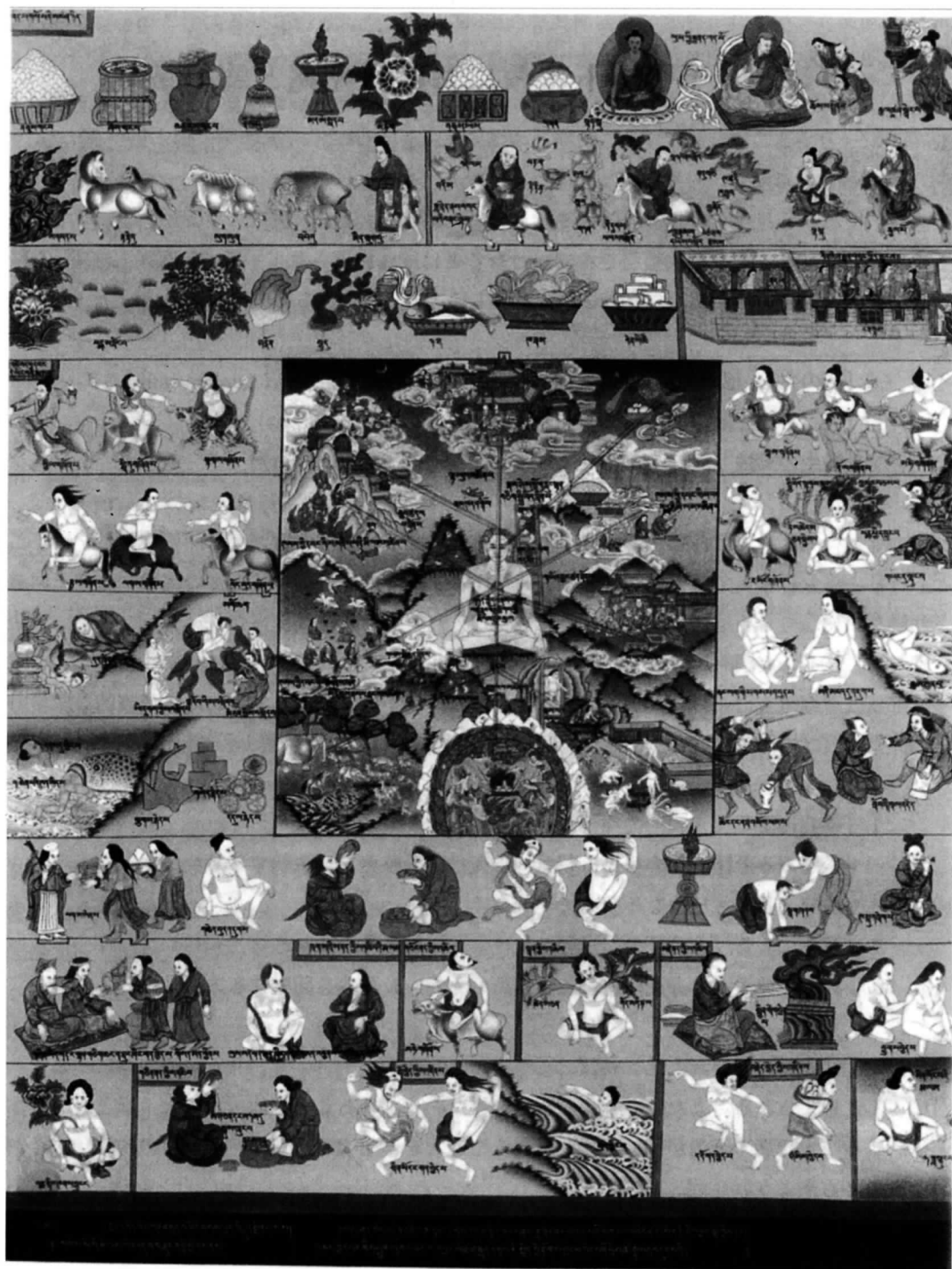


図1 『四部医典タンカ』19 (70.3) : I 「夢兆による『人の死の兆候』」



図2 『四部医典タンカ』20 (70.3) : I 「夢兆による『人の死の兆候』」
ならびにII 「死兆による『人の死の兆候』」

なお、I - ii と II - ii には、インドの医学書『八支心髓』およびその注釈『月光』を典拠とする兆相がそれぞれ付け加えられており、これは『四部医典』の成立過程を明らかにする上で極めて重要な点と思われる。

注目すべきは、以上の「兆相」がいずれも医師が果たすべき領域の境界を知るための基準であるという点にある。つまり、『四部医典』はあくまで医師を対象とするものであり、①②が中心となる。一方、チベット仏教世界において③の役割を主に担ってきたのが、インド密教の流れを汲む僧侶であった。エヴァンス・ヴェンツ（1878-1965）によって「チベットの死者の書」として紹介された『バルドゥ・トエ・ドル（中有において聴聞することによる解脱）』は、③を主題とするものと言える。また、活仏（トゥルク）制度を明らかにする上でも、③の教理内容は重要である。

以上の背景を踏まえれば、医学文献とインド・チベット密教典籍との関連を知るためにインド密教がチベットに伝達される複数の伝達過程に注目するべきだと言える。

参考文献

- EINOO, Shingo (永ノ尾信吾). 2004. "The Signs of Death and Their Contexts", Three Mountains and Seven Rivers: Prof. Musashi Tachikawa's Felicitation Volume, Edited by Hino Shoun and Toshihiro Wada, Delhi: Motilal Banarsidass.
- 川崎信定 1993 『原典訳 チベット死者の書』（ちくま学芸文庫）筑摩書房
- 奥山直司 1989 「化身の王権—ポタラ宮「再建」論」『東北大学西藏学術登山隊人文班報告「チベット・曼荼羅の世界」』小学館
- 桜井宗信 2007 「Jñānapāda流の伝える死者蘇生儀礼—Vitapādaの所説を中心に」『現代密教』20
- 桜井宗信 2008 「聖者流の伝える茶毘儀礼—hPhags pa lha (*Āryadeva) に帰された著作を中心に—」『現在密教』21
- 桜井宗信 2011 「Bu ston の示す死者儀礼 (1) —dPal mchog dDo rje sems dpa' sgo nas tha ma' i dus la bab pa rnam rjes su 'dzin pa' i cho gaを中心に—」『日本西藏學會々報』57
- SCHNEIDER, Johannes. 2010. *Vāḡiśvarakīrtis Mr̥tyuvañcanpadeśa*, eine buddhistische Lehrschrift zur Abwehr des Todes, Wien : Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften.
- 三
五
杉木恒彦 2007 『サンヴァラ系密教の諸相—行者・聖地・身体・時間・死生』東信堂
- 田中公明 1997 『性と死の密教』春秋社
- 種村隆元 2004 「インド密教の葬儀—Śūnyasamādhivajra作Mṛtasugatiniyojanaについて—」『死生学研究』2004年秋号

- 平岡宏一 1994 『ゲルク派版 チベット死者の書』 学研
- 山折哲雄 1989 「二つの肉体—チベットにおける王位継承と転生思想」『東北大学西藏学術登山隊人文班報告「チベット・曼荼羅の世界」』 小学館
- 山口瑞鳳 1987・1988 『チベット』上・下 東京大学出版
- WILLIAMSON, Laila and YOUNG, Serinity. 2009. Body & spirit : Tibetan medical paintings, Seattle: In association with University of Washington Press.